

今回は特別編第2弾として、「利尻礼文サロベツ国立公園」、「下サロベツ原野園地」、「幌延ビジターセンター」、「パンケ沼園地」についてご紹介します。自然豊かな利尻礼文サロベツ国立公園の魅力ぜひ体感してください！

## 利尻礼文サロベツ国立公園



▲ 雪がまだ残る5月の利尻山

- 北海道の北西部に位置する**日本最北**の国立公園で、1974(昭和49)年9月20日に指定された。
- 公園の特長として、**利尻山**や**礼文島**、**海岸砂丘林**、**サロベツ原野**が挙げられる。
- 公園区域は、利尻島・礼文島の約半分・稚内市から豊富町、幌延町へ続く海岸砂丘林及びサロベツ原野が指定されている。
- 指定面積は**24,166ha**(海域を除く)と、札幌ドーム約**4500個分**に匹敵するほどの広大な土地である(札幌ドーム:約5.3ha)。

## 下サロベツ原野園地



▲ ツメナガセキレイ



▲ 長沼に浮かぶヒツジグサ



▲ 長沼(幌延ビジターセンター木道より)

幌延ビジターセンターを含む下サロベツ原野園地は、かつてサロベツ川の一部であった長沼のほか、パンケ沼、パンケ沼、小沼など、サロベツ湿原の中でも多くの湖沼が見られることが特徴です。長沼の周囲長は約2.5kmで、深さは約2mに及ぶ淡水湖です。

今回は特別編第2弾として、「利尻礼文サロベツ国立公園」、「下サロベツ原野園地」、「幌延ビジターセンター」、「パンケ沼園地」についてご紹介します。自然豊かな利尻礼文サロベツ国立公園の魅力ぜひ体感してください！

## 幌延ビジターセンター

サロベツ原野の玄関口として、サロベツ原野とそこに息づく多種多様な植物や動物の生態を映像や展示でわかりやすく紹介している施設です。

1階では湿原を代表する動植物の紹介や湿原の成り立ち、最新の開花情報などを知ることができ、2階には原野を広く見渡せる望遠鏡が設置されています。

ビジターセンターから伸びる木道沿いには、湿原に関する様々な情報を看板にて紹介しており、途中には「やちまなこ」がすぐ近くで見られ、棒を差し込んでその深さを体験することが可能です。

● 開館日時 ●  
5～10月 9:00～17:00  
(期間中無休)  
11～4月 冬季閉館  
【入館無料】



▲ 幌延ビジターセンター外観



▲ 1階 学習展示エリア

▼ 2階 展望エリア



▲ やちまなこ観察デッキ

## パンケ沼園地



▲ 夕暮れのパンケ沼

サロベツ原野最大の沼であるパンケ沼は、南北30km、東西10kmに広がるサロベツ原野のやや南側に位置する海跡湖で、周囲は約8kmに及びます。海水が混じった汽水湖であることから、沼にはヤマトシジミが生息しています。北にあるパンケ沼と対の沼で、「パンケ」とは下流側を意味します。(パンケ:上流側)

沼の周辺では多くの湿地性植物や野鳥が見られ、特に6月から9月にかけては、色とりどりの花や小鳥たちで辺り一面が賑わっています。